

## 平成 29 年度 日野春學舎構想 事業計画

当法人が取り組む広域的公益活動「日野春學舎構想」は、平成 26 年度から日本財団の助成を得て活動を本格開始し、平成 27 年度は外部識者の協力も得て各部門の活動を拡充させる年となり、3 年目の平成 28 年度は、構想全体の自立を目標として取り組んできた。その結果として「農業」「ブリッジスクール」「アート」の各部門でそれぞれに成果が上がった一方で、次に取り組むべき課題（＝目標）も明らかになった 3 年だったと言える。平成 29 年度は、これまでの課題を整理し、成果を引き継いで更に昇華させるための取り組みを進めていきたい。

まず「農業部門」においては、NPO「つちのね」を立ち上げてコーディネーター役とし、山梨県の「農福連携障害者就労促進事業」や「全国農福連携推進協議会」との連携関係も構築・強化して、商品開発及び宣伝による販路の拡大とブランディングを進めて収益を向上させ、中間的雇用の場を拡充して、より独立・安定した運営体制の確立を図っていきたい。

次に「ブリッジスクール部門」では、4 年目を迎える就職困難者向けの就労支援「トライコース」に加えて、昨年度からスタートした、ひきこもりや発達障害など、他者との関係性を築き難い方達を対象に、社会との架け橋を再構築することを目標とするグループ「つどいコース」の取り組みを継続するとともに、社会参加に課題を抱えた中高生に就労実習の場を提供し、その成功体験によって成長を支える「チャレンジワーク」や、より広範で多様なニーズに対して柔軟に対応するためのグループワークや相談支援を行う「ブリッジラボ」を厚く展開し、受講者の自己決定・自己実現を支援する体制の構築を目指したい。

さらに、「アート企画部門」においては、厚生労働省より採択を受けた平成 28 年度「障害者の芸術活動支援モデル事業」での活動実績を踏まえて、平成 29 年度は、2020 東京オリンピックパラリンピックと連携した「文化オリンピアド」と、「文化芸術立国」の実現に向けてさらにスケールアップして施行される「障害者芸術文化活動普及支援事業」に取り組んでいきたい。

構想全体としては、別図「平成 29 年度日野春學舎構想基本構想図」に図示した通り、3 部門の連携をより強化し、活動の相互補完と推進力強化を図りたい。

また、活動をより広く社会に意義のあるものへと昇華させ、継続的な自立活動への道筋を付けるため、事業の公益性を活かした各種助成金の活用を図る他、実績の蓄積とその広報等、社会的投資をも呼び込むための方策も検討していきたい。そうして、より広域的な魅力発信と活動連携の輪を広め、福祉の枠組みに留まらない、社会との相互支援及び協力関係を構築することを目標として取り組んでいきたい。

これらの活動を通して、制度の狭間にあって生き辛さを抱えた方達が、自分の進むべき道を自分で見いだすことができる支援を目指している。これがこの構想の圧巻であり、そうして自分の足で歩き始めた彼らが今度は主役となって、活力を失いつつある地域のエンジンとして再び地元を元気にしていくことが、私たちの目指すべき「ソーシャルイノベーション」だと考える。

「平成 29 年度 日野春學舎構想基本構想図」

